

圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
 発行人：石川 育成 編集人：酒井 明夫
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

第24号内容
 ・ 苦難の経験伝えたい
 災害と歯科支援

岩手日報 H24.9.6

※なお、文中で紹介されております
 「岩手医科大学歯学雑誌」は圭陵会
 会報336号(10月号)配布時に同封致
 します。

論説

2012年9月6日

苦難の経験を伝えたい

災害と歯科支援

岩手医大歯学部が、東日本大震災への対応を「岩手医科大学歯学雑誌」にまとめた。大災害に立ち向かった貴重な記録。今後の災害医療に役立ててほしい。

各分野ごとに歯科医師や歯科衛生士らがつづった活動報告は、医療支援や遺体の身元確認など、被災地の大学ならではの苦闘にあふれる。

大震災は、「想定外」の連続だった。震災直後の病院では患者を守り、被災地への人材の派遣、学生や職員の安否確認などに追われた。

防災マニュアルは存在したが、その通りにできたことはまれ。通信が途絶し、現地に行こうにもガソリンや食料が不足するという初動の壁も経験した。

手探りの活動が始まった。歯科医療支援は県歯科医師会が窓口になって行われた。沿岸部では多くの歯科診療施設が流され、犠牲になった歯科医師もいる。被災者は避難所で治療を受けられずに我慢していた。

虫歯が痛んだり、入れ歯を失った人もいた。歯の健康は食の基本。食べることができなければ健康を損ない、会話に支障が出る恐れもある。

口の衛生も被災地の大きな課題となった。誤嚥性肺炎の心配がある高齢者の口腔ケアを急がなければならない。医療支援が続いた。

震災で歯科医師が果たした大きな役割に、遺体の身元確認があった。歯科所見は有力な手掛かり。県歯科医師会と連携して3月下旬から毎日、被災地に通った。

だが、津波という災害では予想もしない困難があった。被災した沿岸部の医療施設では、カルテも流失して照合ができないことだ。

このため、レポート(診療報酬明細書)を基に、データと照合した。県歯科医師会と検索システムも共同開発。DNA鑑定や歯科の照合で身元が判明した遺体は200人近くに上った。

を整備する。歯学部もこの一翼を担う。三浦廣行学部長は「経験を風化させないことが責務。トレーニングを積むなど、大学として教訓を生かしていきたい」と語る。

南海トラフなどの地震・津波に備えて、この経験を全国に伝えていくことも重要な使命。活動報告をどこからでもダウンロードできる学術誌に掲載したのも、それが大きな目的だった。

厚労省の研究事業として10年間にわたる追跡調査が始まった。8月29日現在、87人の上る身元不明遺体のデータの絞り込み作業は今も続く。

被災者の口の健康を守りたい。遺体を家族に返してあげたい。歯科医師たちの奮闘は終わらない。

岩手医大は震災を機に、災害時地域医療支援教育センター